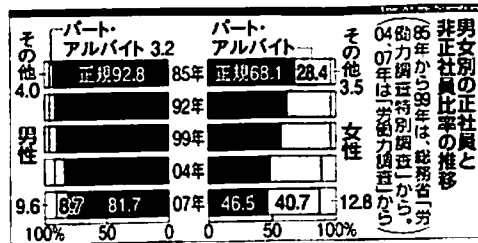


# 高まれ関心 分野超え連携

## ネット結成 政策提言目指す

「女性で安心、貧乏でも安心」。こう書かれた幕の前で女性たちがそれぞれの貧困を報告する。9月28日、東京の千駄ヶ谷区民会館で開かれた「女性と貧困ネット」の発足集会は熱気であふれた。

ホームレス女性らの「ノラ」の会や「新宿野宿者女性の会」などを開く「ノラ」などと親の助け合いNPO「しんるま」が、一橋大の全国センター



(ACW2)「……」。こうした組織が初めて分野を超えて連携に踏み出した。

引き金は、「女性の貧困」への世間の関心の低さだった。非正規社員は働く女性の5割を超え(グラフ)、その賃金は男性正社員の4割程度。ACW2には、パートの低賃金で働いても食へられない、社会保険に入れない、と悲鳴のような相談が相次ぐ。

シングルマザーの平均年収は170万円程度。これを支える児童扶養手当も削減が打ち出される。シングルマザーの8割は働いているのに、政

## 「家出たら死ね」という社会

集会では、「解決策」のほがずの結婚が招いた女性の貧困体験が次々と報告された。

夫のDV(パートナーからの暴力)で離婚した千葉県的女性(55)は、結婚前は幼稚園の先生。結婚退職し、夫の郷里へ移ったが夫は仕事で長

府は就労による自立を促す。「女性の低賃金は問題にさぐれにくい。非正規員の過酷さが社会問題になったのは男性の非正規化が進んだから」とACW2の伊藤みどり代表。

フリーターの当事者発信雑誌をつくる「フリーターズフリー」の栗田聡子さん(34)は若手も合流した。「20、30代は男性も非正規が多い。女性を養えるとは思えないが、女は貧乏でも結婚すればいい」と言われる」と笑う。

女性の貧困を見えるようにする、異なる分野の連携で安心のシステムをつくる、貧困問題に政策提言をしていく……。そんな目的で、ネットワークの結成が決まった。

## 男性に波及解決に一石

女性の働き方は、男性のワーカー化の「先行事例」との見方も相次いだ。

東京の派遣社員の女性(45)は、OA機器の操作や財務管理などを担当して来た。部長級の資格が深夜の会議にも出席を求められ、賃金は月13万円。いきなり仕事を打ち切られ、日雇い派遣でついでにできた。最近、若い男性が「こんな賃金ではプロボウズもできない」「子どももつくれる」と嘆き始めた。「女性たちの問題が男性にも波及した」と感じる。

「しんるま」の赤石千衣子さんは、「女性に食べられないほどの低賃金でも社会保険がなくとも問題にされない。その便利さを味わった企業が、男性にもこれを広げた。」

会場からは「男性の貧困化はよくないが、男女が共通の言葉で貧困を話し合えるようになった面もある」との声も。「貧困女性の連携」は、男性の貧困解決にも一石を投じつつある。

「女性と貧困ネット」のブログhttp://d.hatena.ne.jp/binbowwomen/ (編集委員・竹信三恵子)



「女性で安心 貧乏でも安心」のスローガンを掲げた「BINBOW WOMEN (ピンポー・ウィメン)」の幕の前に、輪になって貧乏体験を報告する女性たち=28日、東京都渋谷区

集せず結婚前より収入が減った。夫の暴力で、子どもをおいて家を出た。地方では仕事は少なく、中小企業の雇い止まりになった。賃金は13万円程度。過労で体を壊した。

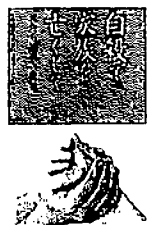
東京に住むケニア人女性(41)は、日本人と結婚して20年ほど前に来日。専門学校で教えて家計を助けたが、夫は「自分より稼ぎが多い」と不機嫌になり、仕事を減らした。夫の親族が出産に反対し6回中絶。家出してやっと出産した。日本の仕組みがわからず、夫にいわれるまま署名した書類は離婚届だった。

「不法滞在」で拘束されたが、NGOに支えられ、今は就労許可を持って生活保護で子どもを元気に育てる。

家事・育児の合間に細切れで働くことの多い女性は、年金の受給資格を満たせず無年金になることも多い。

東京の山口摩子さん(73)は、結婚前に23カ月間厚生年金の保険料を払い、退職後も6人の子どもの育てながら複数の職場で日雇い労働をかけた。だが、勤め先が保険料の適用除外を申請したことで無年金に。「女性の働き方に制度が見合っていない」

今年3月まで婦人相談員た



「自殺で家族をくくって」

全国自死遺族総合支援センター編

怒りと悲しみで精神のバランスを崩す。一方、苦しんでくれる人の存在で人生を取り戻し、死者との思い出とともに生きようとする。

10年間、毎年3万人が自殺する日本。「自殺は不幸で隠すべきもの」「死ぬのは弱い人」という偏見と無関心を覆えたい、という願いで出版された。各地の団体、相談先も掲載する。

(三省堂、税抜き1,500円)